NeWs

No.142
2019/10/01

慈しみに感謝

■サレジオ高専News
校長メッセージ
2018年度 寄付・支援者 団体 ご芳名
坂口 雅人 助教の研究が助成採択
父母会の皆様からの寄付により図書館に新たな専門書が追加されました

■育英学院同窓会報
SHCD2018開催／育英祭2018開催（BLOG報告から）
第13回育英ファミリーの集い
第52期卒業式・謝恩会スナップ
第13回育英ファミリーの集いスナップ
恒例のキャリアデー開催／キャリアセンター・専門学科共催
同窓会第3回理事会／SHCD2019第1回幹事会開催
インターネットを使われないOBの皆さんのために同窓会BLOGからPickupしました
育英高専　14期　デザイン科卒　佐藤氏より
育英高専　2期　印刷工学科卒　杉原氏より
育英中学　7期卒　小熊坂氏より
育英高専　28期　情報工学科卒　阿部崇氏・涼子氏より
育英高専　7期　電気工学科卒　齊藤氏より
ちひろが再会した人々（東ティモールに帰ってきた!?）

■父母会だより
手作りを楽しむ会・育英祭・秋のバスハイク・マラソン大会・新年の集い
平成30年度　学生活動等支援補助金受賞団体のその後
平成30年度（第52期）卒業生保護者の思い

SALESIO

サレジオ高専

サレジオ工業高等専門学校
194-0215 東京都町田市小山ヶ丘4-6-8
Tel. 042-775-3020　Fax. 042-775-3021

Loving Kindness
Human Technology
Living Truth

発行人・・・校長:小島 知博
編集長・・・教員:山舘　順
編　集・・・広報:青木 風季

－　寄付と支援に感謝　－

　サレジオ高専の教育活動にご理解とご支援をいただき感謝申し上げます。学校は一年を通して実施すること、例えば行事などは毎年ほぼ同じです。同じ行事を毎年行ってもすべて内容や学生の様子が違っています。それは新入生の加入と学生の成長があるからです。4月に新年度がスタートして月を重ねるごとに学校行事があり、授業理解や研究内容が深まり、様々な問題が起こり解決されて学年の終了を迎えます。

　このような一年の時間の流れには見えていない学校の要素があります。それが経営です。学校は学生からの学納金と国からの補助金と支援者の寄付金で運営されます。2018年度も企業、研究所、個人、父母会などの皆さまからたくさんの寄付金をいただきました。心より感謝いたします。

　教育や研究、またその設備には金銭的な負担がかかります。国からの補助は配当が毎年変わり、一定額をいただくわけではありません。そういう中で寄付によって支えていただいていることは、学校にとってはとてもありがたいことです。

　寄付には本校への期待が入っていると理解しています。皆さまの期待に応えて、学生の教育や研究活動を本校だけではなく、外部の方々の協力を得て発展させてまいります。これによってますます支援して下さる方が増えることを願っています。多くの人々に支えられて学生たちがしっかりと成長できるように尽力してまいります。

サレジオ工業高等専門学校
学校長　小島　知博

2018年度　寄付・支援者　団体　ご芳名

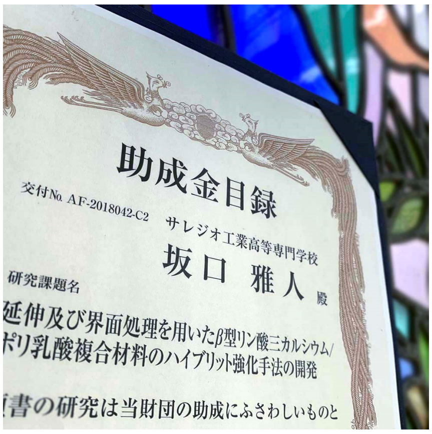
（一財）WNI気象文化創造センター　様
エー・ティー・シー（株）代表取締役　新井 孝利　様
（株）ニッシン　様
（株）ニッシン代表取締役　竹内 新　様
（株）エイチ・エス・ジェイ代表取締役　佐々木 智　様
機械電子工学科吉田研究室　吉田 将司先生並びに卒業生の皆様
木戸 能史　様
（公財） 天田財団　様
大学コンソーシアム八王子　様
常見 博明　様
電子情報通信学会 東京支部　様
中沢 勇　様
父母会の皆様
HKT（株）代表取締役　山﨑 正男　様
URB代表　品川 龍一　様

2018年度も暖かなご支援を数多く頂戴いたしました。心より御礼を申し上げます。
頂きましたご支援は学生のために使用いたします。

機械電子工学科　坂口 雅人 助教の研究が、天田財団平成30年度前期「奨励研究助成（若手研究者）」に採択されました

2018年、本校 機械電子工学科の坂口 雅人助教の研究が、公益財団法人 天田財団の平成30年度前期「奨励研究助成（若手研究者）」（分野: 塑性加工）に採択されました。

奨励研究助成（若手研究者）とは、助成対象分野の若手研究者の挑戦的な研究に対して助成されるものです。この度の助成では先生の「延伸及び界面処理を用いたβ型リン酸三カルシウム/ポリ乳酸複合材料のハイブリット強化手法の開発」という研究が採択されました。



この度は平成30年度 天田財団 奨励研究助成に採択していただき、誠にありがとうございます。私は平成29年度に本校機械電子工学科に助教として着任し、教育面ではまだまだ至らない点が多く先達の先生方にはご迷惑をかけておりますが、研究面では博士までに行ってきた研究を基に少しずつ確実に進めさせていただいております。

そのような中、当研究助成を頂けたことは大変ありがたく、励みに感じております。頂けた助成分以上の成果を出し、今後の社会に還元できるよう、より一層努力して参りたいと存じます。

また、高専の助教として研究室や講義において多くの学生たちと関わる環境に居させてもらっています。そのため、研究における成果を出す過程で学生たちに高専で学ぶ「ものつくり」のその先を見せてあげられるように当研究助成を最大限有効に使わせて頂きたいと考えております。

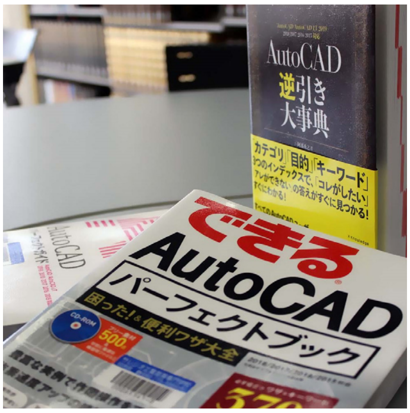
機械電子工学科　坂口 雅人　助教

父母会の皆様のご寄付により
図書館に様々な専門書を追加することができました

カラフルな図鑑や貴重な専門書、検定資格の本…これらの本は、
父母会の皆様のご支援により購入できたものです。

貴重な書籍が加わることで図書館はより豊かになっていきます。
学生たちの学びの場、憩いの場である図書館をこれからも充実
させてまいります。

暖かいご支援に、この場を借りて御礼申し上げます。



2018年度　ご支援により購入した専門書

- ビジュアル地球探検大図鑑
- 世界の航空機大図鑑
- オックスフォード キリスト教辞典
- 【新装版】 生物の動きの事典
- AutoCAD逆引き大事典
- AutoCADパーフェクトガイド
- できるAutoCADパーフェクトブック 困った＆便利ワザ大全
- 日本のインテリアデザイン全史
- 感性デザイン -統計的手法（ラフ集合）、事例、I/F、マーケティング
- 世界の文字と記号の大図鑑
- カラーコーディネーションの実際（第3版 第2分野 商品色彩）
- カラーコーディネーションの実際（第3版 第3分野 環境色彩）

育英学院同窓会報

発行人:育英学院同窓会 ／ 事務局:東京都町田市小山ヶ丘4-6-8 サレジオ工業高等専門学校内

同窓会・同窓生イベント・卒業生便り特集

SHCD2018集い開催
育英祭2018開催（BLOG報告から）
サレジオ高専　2018/11/3

昨秋町田で開催された「育英祭」の初日2018年11月3日（土）に出席された皆さんの集計を報告いたします。

工高出身者	（10期～16期）	6名
高専出身者	（01期～08期）	6名
同	（10期～15期）	5名
同	（20期～28期）	5名
同	（31期～38期）	7名
同	（40期～50期）	17名
内	46期の方が10名出席でした	
同（新卒）	（51期130名の内）	31名
教職員（OBは卒生に入れました）		7名

総勢84名ですが未確認の方も多数おられました。今年は21期～25期、46期、51期を招待いたしましたが20期～39期あたりの皆さんは社会人として中核世代にあり参加することが難しい状況です。それを考慮し、今年のSHCD2019については年代別招待を休止し、以下の会員に招待状を発送します。

SHCD2019招待会員

1. 同窓会役員（顧問,相談役,理事,評議員,執行役員）
2. 年会費既納会員（2000年以降年会費既納会員）
3. 新卒後5年内会員（今年は48期～52期新卒）
4. 年会費お願い対象会員（44期～47期）
5. 特別会員（現元教職員、OB登録父母）

を予定しています。高専ニュースの発送についても上記会員に限定することといたします。年会費未納の会員はこの際「年会費」の納入を是非お願いするところです。**もちろん当日参加は卒業生のどなたも参加できます。**同窓会の財政は主として新卒会員の入会費（兼5年分会費）に頼っていますがそれだけでは賄えない状況で、年会費が重要な財源になっております。現在は2019～2020年のお願いをしていまして過去の未納は問いませんのでよろしくお願いいたします。

なお今年の育英祭は2019年11月23-24日です！！

第13回育英ファミリーの集い
杉並サイテック　2019/3/30

去る平成の時代3月30日に恒例の育英ファミリーの集い（第13回）が育英発祥の地、杉並サイテックで開催されました。
出欠状況は以下の通りでした。

育英ファミリー集い案内送付	648
当日出席（名簿上）	86
当日家族出席	4
欠席回答総数	202
次回発送予定	667

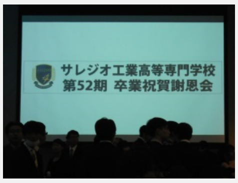
今年は往復ハガキによる案内でしたので返信が半分近くに達しました。また近況については会員制BBSにアップしてあります。ID,PWは同窓会事務局までお問い合わせください。

司会進行は山下隆雄（S01E)さんのもと、会長挨拶但馬剛会長（H10E)、来賓挨拶濱口秀昭（本会名誉会長）サレジオ会管区長、小島知博（本会相談役）高専校長、河村英和同窓会長（S1E）と続き会計報告を大沼哲郎（H11E)副会長、乾杯を　元育英高専吹奏楽部顧問　伏木幹育（育英高専元職）神父にお願いし開宴しました。

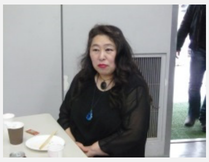
懐かしい顔、姿に互いに旧交を温めました。アトラクションはソプラノ歌手小川えみ様（下井草教会）、動く蒸気機関車実演を依田勝幹事（H14E)、同窓会からCaféTimor　チーム鈴木ちひろ（S31GE）さん、そして幹事の尽力でBINGOの賞品が多くの皆さんに当たりました。最後に集合写真を小川裕康副会長（H10C)が、また次期桂嶋会長を但馬剛会長から紹介、恒例の校歌は加藤多津生幹事（H12P)のリードで楽しいひとときを過ごしました。

次回第14回は2020年3月28日杉並開催予定です。ご案内は過去の案内、出席者にいたしますのでご参加希望の方は同窓会事務局までお知らせください。

第52期　卒業式・謝恩会スナップ　2019/3/20



第13回育英ファミリーの集いスナップ　2019/3/30



恒例のキャリアデー開催
キャリアセンター・専門学科共催
育英学院同窓会支援　2019/5/25

去る2019/5/25、町田のサレジオ高専において恒例の標記会合が開催された。今年は再来年2021年春に卒業予定の現4年生（本科54期生）を対象に行われた。遠路地方から来校した方もあり、昨年同様に同窓会からわずかながら謝意を表した。以下に今年の講師予定者一覧を掲載する。当日の都合で出席できなかった講師もあったが、各学科に分かれて開始、比較的年齢の近い講師も多く、共感のもてる話もあったと聞く。4年生は年明け就活が開始されるため有益な機会になったことが予想される。
なお現5年生については高専に対する期待が大きく現状電気系は100%に近い内定率見込みと聞く。

2019キャリアデー講師予定者

デザイン学科（デザ）　（株）（学）省略

高専51期デザ卒	板間美波	東洋製版
高専50期デザ卒	加藤拡実	東洋製版
高専51期デザ卒	内村雛子	東急ｴｰｼﾞｪﾝｼｰﾌﾟﾛﾐｯｸｽ
高専51期デザ卒	富樫達也	新村印刷
高専51期デザ卒	大矢美幸	ミドリ安全
高専51期デザ卒	水野遙香	千葉大学
高専51期デザ卒	竹内美樹	武蔵野美術大学

電気工学科（電気）

高専26期電気卒	髙木和憲	JR東日本
高専43期電気卒	青木裕太	メタウォータ
高専44期電気卒	菊池輝之	KYB
高専50期電気卒	松原太一	新協電子

機械電子工学科（機電）

高専46期機電卒	中川寛淑	日立ビルシステム
高専48期機電卒	根岸拓矢	アライドテレシス
高専48期機電卒	山本亮汰	東京特殊車体
高専49期機電卒	木村一貴	日本大学大学院
高専49期機電卒	小山輝	工学院大学大学院
高専51期機電卒	岡村恵	富士通エフサス
高専51期機電卒	山賀雅人	千葉工業大学
高専50期機電卒	藤田夏乃介	JR東日本
高専50期機電卒	菱山雄飛	JERA
高専46期機電卒	中田匡哉	日産自動車
高専51期機電卒	山田健史	SUBARU
高専51期機電卒	佐藤聡基	SUBARU
高専51期機電卒	厨裕紀	

情報工学科（情報）

高専26期電気卒	慶松大海	Blueship
高専26期情報卒	岸川雄一	エイグローブ
高専31期情報卒	高津健	NTTデータ
高専45期情報卒	大砂裕樹	ﾚｼﾞｪﾝﾄﾞ・ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝｽﾞ
高専45期情報卒	松浦拓哉	ヤマト運輸
高専45期情報卒	松田健	Sansan

同窓会第3回理事会
SHCD2019第1回幹事会開催
育英学院同窓会　会長　河村英和　2019/5/25

キャリアデーの同日午後、標記の会合が開催された。当初21名の出席を予定していたが3名の欠席で17名の出席で開催された。理事会については委任状を含めて14名以上の出席を確保し会合は成立した。

理事会議題

1. 当日開催のキャリアデー支援報告
2. 出欠席の理事・幹事の紹介と理事会成立
   出席17欠席52（理事25［成立14以上］）
3. 同窓会現況報告
   総員14559、住所確認7057、不明5569
   正会員12667、特別会員482
4. 同窓会からの配布の限定化
   2018年秋発送7057（住所有効全員発送）
   2019年秋発送2374（住所有効限定発送）
   理事会では試算1553と報告しましたが再計算でこのようになりました。
5. 高専ニュース年1回発刊と限定発送による財政改善の見積は2018年の発刊発送合計で約60万が2019年では同合計が30万弱の見通しでこれにより同窓会支出の黒字化を見込む。なおHPを利用して高専ニュースや同窓会報は閲覧可能とする予定。
6. 関東信越地区高専同窓会を本校同窓会が幹事校となり10月5日に会合を行い、翌6日にNHKロボコン地方大会（町田成瀬体育館）を代表が見学を予定
7. サレジオ同窓会日本連合の活動報告、2020年12月5日～7日、日本で開催予定、日本からは日本連合の代表団が参加、7日にはサレジオ高専の見学を予定、アジア・オセアニア地区8-18カ国の代表団の参加が見込まれる。
8. 同窓会当期決算と次期予算の見通しについて報告、正式には2019/11/23の定期総会で報告審議
9. 年会費納付のお願い文書案提示

幹事会議題

10. 今年の育英祭は例年と異なり2019年11月23日～24日に開催、同窓会総会とSHCD2019 は初日の23日に開催予定
11. 年次毎の招待は財政上の理由で休止、今回は案内の限定送付で招待とする。ただし当日参加は限定しないので卒業生すべてが参加当日受付とする
12. SHCD2019当日の進行予定案提示

詳細資料は定期総会終了後、同窓会ホームページに掲載する予定、ただし会員専用でID,PWが必要。
高専HP　http://www.salesio-sp.ac.jp
同窓会HP　http://www.ikueigakuin-dosokai.org
会員BBS　http://www.ikueigakuin-dosokai.org/
続けて　cgi/gwbbs/doso/gwbbs.cgi
広報BLOG　http://igdk.sblo.jp

インターネットを使われない　OBの皆さんのために
同窓会 BLOG からPickupしました
http://igdk.sblo.jp/

2018年10月22日

第2回育英・サレジオ高専元職会2018/10/13（杉並）

　さる2018年10月13日（土）杉並の育英サイテック館において育英高専・サレジオ高専で働かれたOB教職員の皆さんが参集し、旧交を温めた。元々は慶弔の連絡組織としてスタートしたが故ヘンドリックス先生のご遺志を引いて、年一回の再会を図りお互いの親睦を深めている。今年2018年は16名の皆さんが参加した。高専からは事務部の柴田入試本部長が校長の代理として出席し、校長からのお祝いを差し上げた。

サムネイル(jpg)

参加された元職の皆さん・・・会の幹事は各学科毎に以下の通りである
ＧＥ科 加藤多津生、Ｄ科 林勉、ＥＥ科 松岡　宏、ＥＣ・ＭＥ科 黒田史郎
ＣＳ科 木戸能史(暫定)、ＢＥ科 野澤忠義、専攻科 大杉功、事務 杉山りつ子、
杉並育英サイテック担当司祭　伏木幹育

2018年12月10日

高専26期電気工学科情報工学コース初のクラス会報告

既報の通り去る2018年12月7日（金）19:00から西池袋のひもの屋でクラス会を開催しました。クラス内の有志では集まることもありましたが、今回は連絡可能な仲間に声を（LINE、FB、SMSで)掛けなんと17人も集まりました。卒業して26年、全然変わらない人、太って貫禄の付いた人、痩せた人など卒業以来初めて会う人など・・・
二次会にも全員で移行して、遅れて参加した堀端君も加えて大いに盛り上がりました。
皆仕事も、結婚も順調のように見えました。高専初の女子1期生の3人も加えて学生時代に還りました。

一次会の様子（担任の小出、安達先生は所用で参加できませんでしたが米山・木戸先生が参加して頂きました。出席卒業生は阿部、雨宮、瀬間、高木、齋藤、清水、宮坂、福島真美、福島茂幸、慶松、岸川、中町、古屋、宮下、安田、山添、堀端の17名
Mailto m.saito.0514@gmail.com（幹事齋藤実の連絡先：同級の方はこちらに連絡を！）

2019年02月21日

高専12期グラフィック工学科B組は担任の横山先生とともに・・・クラス会報告

　下記の通りお知らせしたクラス会の開催報告がありました。当日 担任であった横山東太郎先生をはじめ、田中、服部、笠原、安木、加戸、国村 須藤、清水、鈴木、関、渡辺、高橋、遠藤、石井、中尾、嵯峨の16名の卒生が 参集し、再会と還暦を迎えた互いの息災を祝った。出席された級友以外で連絡 を取りたい方は幹事の関さんまでどうぞ 集合写真

以下過去発信 高専12期グラフィック工学科B組の皆さん、お元気ですか。ちょうど還暦を迎える 今年、担任であった横山東太郎先生の地..

posted by いくえいぶろぐ at 20:37

2019年07月15日

高専写真部OBOG会(2019/3/23）開催報告

ようやく写真部OB&OG会の報告が入りましたのでBLOGにアップいたします。
遅くなりましたが、3月に開催した「２０１９年 写真部新OB＆OG歓迎会」の記事をお送りします。（幹事小泉さん）
去る2019年3月23日土曜日、西新宿「蜀香園」にて、2019年3月卒業の新卒歓迎のOB&OG会を開催しました。5名の新OB&OGの卒業生と新しい門出を祝うために、冨田顧問、川本元顧問をはじめ27名のOB&OGが集い、懇親を深めることができました。
参加者は以下の通りです。
工高15期：川本、高専2期：杉原、高専9期：小池、山廣、高専11期：千葉、加藤、栗原、高専12期：加藤、荒、佐々木、小泉、高専13期：村野、高専14期：島津、土屋、高専21期：冨田、高専27期：高橋、高専31期：市川、高専32期：天川、服部、齋藤、久田、高専36期：島本、高専37期：伊藤、高専47期：遠藤、高専50期：新美、杉本、高専51期：水野、高専52期：前島、臼井、長谷川、深澤、山崎

当日撮影の集合写真（さすが写真部キレイに撮れています・・・事務局）

高専12期電気工学科B組クラス会開催報告(2019/7/13)

　去る7月13日（土）品川区大崎（大崎駅南口ゲートシティB1)のロウジ（Rouji）で標記クラス会を開催した。集合時刻の１２時（正午）に出席予定の１４名が集合した。このクラス会は既に４回目で幹事の飯野君のお世話で開催されているが、今回は本人が直前に自転車転倒の事故で負傷入院してしまったので急遽、西山・町田両君が代行して開催した。恩師も黒田先生、依田先生、木戸先生の皆さんが出席くださり、更に会は盛り上がった。この期は昨年から今春までに還暦を迎えた。仕事も定年再雇用のものも多かった。
　宴もたけなわのところで仲間同士の近況報告となり、卒業以来１社を勤め上げたもの、１０社も転職したもの、起業あるいは家業（農業）を継いだもの、また結婚して子どもも小学生から大学生、あるいは社会人となって巣立ったもの、あるいは縁なく独り身になったもの、「人生イロイロ…」まさに歌の文句の通りであった。恩師の先生からも近況報告があり、依田先生の現在の勤務先である横浜サレジオでの体験や、黒田先生のハーモニカでお開きになった。
　当日の参加者は出席番号順で以下の通り、初参加も含まれている。次回はさらに多数の出席を期待すると幹事代理の言葉であった。
　猪俣、石橋、石山、神田、近藤、黒田、町田、増淵、増戸、本橋、西山、及川、坂本、上野　以上１４名
　会合のあと幹事代理の西山、町田、猪俣の３名が飯野君を見舞った。その後猪俣君からメールが来たので意識障害や、後遺症は今のところ見られないようだが今月末までは入院とのことである。

以下集合写真

2019年07月02日

育英工高12期印刷科（S36卒）「喜寿（77歳）を祝う会」開催（2019/5/29)

　去る2019年5月29日（水）育英工高12期印刷科S36年卒の仲間が東京新宿の「隠れ房　新宿店」に集いました。参加者はA,B両組の有志16名、杉並の地から羽ばたいて早、61年という長い年月が過ぎました。気がつけば77歳、喜寿を迎えこれを記念して祝う会を企画、開催の運びとなりました。集まった皆はそれぞれに元気盛ん！「次は傘寿（80歳）目指して頑張ろう！」と頸椎を新たにいたしました。想い出に残るクラス会・同期会となりました。今回参加できなかった仲間も次回目指して是非再会を！（文：幹事加藤多津生）

卒業して42年
Sign から Design な未来を志して･･･

育英高専14期デザイン卒　佐藤　敏明

私は、1976年（昭和54年）杉並の育英高専デザイン科に入学した。選んだ理由は工業デザイン科の存在であった。思い起こせば、幼稚園の頃の遊びが画用紙に描くバスの三面図。当時はパース表現の概念がないため、正面・側面・背面を描いていた。

子ども心に側面上段の窓のHゴム固定や後部の丸いボディ造形が嫌いなことから、私は特急電車の四角い側面窓に変え、バスの正面についてもフロントのグラスエリアを広く取り、乗用車用の角形ヘッドライトに差し替え、ボディ後部を四角く変えるなどして、ひとり悦に入っていたものだ。

シンプルにしたい一心の行為であったが、半世紀を迎えた現在、街中を走るバスが、私が思い描いたようなスタイルになっているのを見ると、子供の頃の想像力も捨てたものではないと思う。子供の関心を否定せずに伸ばす教育が大切と思うのは自らの体験から感じることだ。

小学生になると、興味の対象が鉄道車両に変わり、横使いのA４方眼紙に1/16スケールで鉄道車両を製図するのが日課になった。シャープペンシルと円定規を手に入れたのがその頃で、台車の車輪を描く際に重宝したのを思い出す。お絵描きが製図に変わっていた。

1960年（昭和35年）生まれの私は、戦後の社会構造の変化が高度成長と共に価値観の多様化を生む中で育った。60年

右上に続く

左下の続き

年代に白黒TVがカラーに代わり、移動が公共からパーソナルへと広がるなど、デザインとテクノロジーの融合が社会成長を支え、豊かな社会を手の届く時代に変える手段となった。70年代は音楽・ファッション・クルマといったデザイン革新が個々のライフスタイルを支える多様化の時代を迎えた。私が入学した頃がまさにそのような時代であり、ヘンドリックス校長やカバリエレ先生、スロイテル先生を始め、欧州と日本の先生方の多彩な観点、依田先生や放送部の仲間との多様性に富んだ思考体験が私の原体験のように思う。

就職先は東芝に絞った。都心に通勤する憧れもあったが、憧れの「Aurex」のブランドを扱っていたからである。後にグッドデザイン賞審査委員長を務めた川崎一男氏が「Aurex」のキーパーソンと知ったのは入社後からしばらく過ぎた頃であった。アルバイトでの仕事に加えて楽しかったのが食堂での食事や売店での買い物、安全週間や社内イベントのポスター制作で、安全週間ポスターは全社を通したコンペで採用される仕組みになっており、正社員が対象にもかかわらず、デザイナーの卵という期待からか、私に依頼が回ってきた。アルバイトの身のため、正式な作者としての名は出ずに「高圧閉鎖配電盤設計部」の名でエントリー、部門間コンペを通過し、府中事業場代表を経て、最終的に東芝代表案に選定された。一般社員が片手間で描くのと違い、デザイナーの卵が真剣に描くのだから群を抜いて目立つのは当然である。

在学中の授業で大きな影響を受けた先生のひとりが、日立製作所から非常勤講師として教えに来られた折笠先生（故人）の企業現場の紹介であった。その影響もあり、私は東芝のインターン研修に春、夏と２回連続で参加した。当初、同級生にチャンスを与えるべきとの指導があったが、平山先生（故人）の理解が得られ無事に参加できた。各大学から代表者の集まる場は気づきが多く、我が人生で最初のカルチャーショックとなった。井の中の蛙から抜け出す機会を得たのはいうまでもない。

1981年に東芝に入社、コモディティ商品として低迷していた季節商品の扇風機を任された。その後オーディオへの想いが捨てきれず、先輩の後を追って1989年にソニーへ転職。ソニーではウォーク

次ページへ続く

佐藤敏明氏がデザイン制作に係わった作品群（Part1）

東芝　扇風機「イマージュ」

東芝　扇風機「イマージュ」

ソニー「My first Sony」

ソニー「Discman」

ソニー「Xplod」

フェラーリ「純正AV」

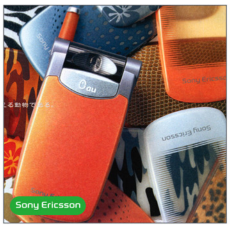
フォルクスワーゲン「純正AV」

ソニー「Sony Mobile」

NTTドコモ「SO205」

ネスレ日本「Nescafé」

トヨタ自動車「pod」



KDDI by au「C1002s」

前ページからの続き

マンやラジオなどのポータブルオーディオを手がけるGAグループに配属された。後にソニークリエイティブセンター長を務めた７期卒の土屋雅義氏、11期の市川一男氏（故人）がエースとして牽引していた頃だ。この頃にはすっかり東芝からソニーのデザイナーに変わった。当時のマネジメントが2期卒の河野壮美氏であった。

１995年に東京デザインネットワーク主催の海外プロジェクト「Think-tek」にソニー代表で選出された。日産自動車、キヤノン、NECの４名が半年ほどロンドン市内でシェアハウス生活を送り、個々の発想による作品を英国ロイヤルカレッジオブアートの教授や英国を代表するデザイナーらをメンターに作品を取りまとめ、完成間もないロンドンデザインミュージアムで報道発表し期間展示を行うという豪華で貴重なプログラムであった。この自己責任極まりない体験が人生最大の意識改革に繋がったのは間違いなく、その後の人生感を変えたのであった。

その後、私自身がマネージャーに昇格して任されたのが、新設された「インキュベイティブデザイングループ」であった。チームには18期卒小幡伸一氏が在籍しており様々なプロジェクトを共にした。

自動車企業とのBtoB交渉の経験を買われてか、その後はソニー・エリクソン・モバイルコミュニケーションズ設立の初期メンバーとして活動、日本市場のデザインをマネジメントするクリエイティブプロデューサーとして商品デザインとブランド向上に勤しんだ。

2006年に日本電気（NEC）に転職、事業部長代理という立場から、企画・デザイン・UX・プロモーションを司る専門集団「クリエイティブスタジオ」を設立、チーフクリエイティブディレクターとしてシェア低下と事業収益悪化の一途をたどるNECケータイをライフスタイルマーケティングで改善を図った。端末事業から撤退した後も社内の中枢組織で活動している当時のメンバーを見るとデザインはモノ・コトだけではなく、ココロやトキまでデザインできるのがわかる。2000年以降、世界経済は急速にグローバル化が進み、市場の変化は急激に加速、将来予測が困難な状況を招いた。

右上へ続く

左下の続き

社会を相手にする企業のR&Dのあり方も変革を問われている。そのような背景から、私は未来への革新に向けて社内外の知的連鎖を図る「知を繋ぐデザイナー」として問題提起と問題解決の糸口をデザインしている。

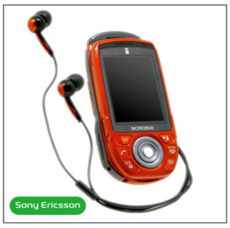
AIテクノロジーブランド構築からTOKYO2020のオリンピックビジネス、シンギュラリティを視野に入れた将来ビジョンとまで、社会の将来課題は多々あるが、モノ・コトを超えてココロ（心）・トキ（時）までを視野に入れた推論に関わってみると様々なデザインの可能性が見えてくるから面白い。

社外では、公益社団法人日本インダストリアルデザイナー協会理事、日本カーデザイン大賞選考委員と公私においてデザイン普及に努めている。

育英高専でデザインを学んでから42年を迎えた。私の場合、自分が「こうあったらいい」と思う気持ちでデザインに取り組んできたもダイバーシティな環境が整っていた育英のキャンパスで培われたものだろう。東芝、ソニー、NECと勤務先は変わってもその姿勢は基本的に今も変わっていない。依頼内容に合わせて器用に応える職人という自負心は持ち合わせていないし、商品デザインのプロフェショナルという気持ちは持たないように心掛け、ただ自分の思いのままにデザインに向かいあってきた。かつての社会のように、人間たちが特定の枠組みの中で共通体験して満足する時代は終焉を迎えた。急速にAI/IoTが浸透する社会構造において、意識・個人・街・社会の関係性をスムージングし、コミュニケーションとインタラクションを新たな価値に変えるデザイン効果やデザイナーの存在が増すのは間違いないだろう。人工知能(AI)が人類の知能を超えて世界の変化をもたらすシンギュラリティ（技術的特異点）を迎える2045年まであと27年。

toxic/detox、merit/demerit、fine/defineのように「sign＝常識」に「de＝否定・深掘り・次へ」を加えた「design＝革新」で豊かな社会を築くエポックメイキングなクリエイターを生み出すサレジオ高専を応援したい。

佐藤敏明氏がデザインした作品群（Part2）


NTTドコモ「SO505iS」

NTTドコモ「premini」

NTTドコモ「SO902iwp+」

NTTドコモ「N-905iμ」

Vリーグ「Red Rockets Bus」

NTTドコモ「Samantha Thavasa」

NTTドコモ「MEDIAS-W」

バイオプラスチック

マイナンバー端末プロト

AIブランド「NEC the WISE」

Co-working space「Spark」

日本カーデザイン大賞選考委員

卒業して50年
育英グラフィックの会に係わって

育英高専2期印刷工学科卒　杉原　文治

1948 年（昭和23 年）東京の中野区に生まれてすぐに高円寺に移り23 歳まで住んでおりました。小学校６年の春に母から私立中学進学の話があり子供心にビックリしたのを覚えています。その頃の中学校は荒れていて心配した両親が私立中学校の進学を進めたのです。色々な中学校見学をした中で育英中学校を選びました。その時に相談した先生が平山吉晴先生（後日副校長）です。平山先生は生涯の恩人になりました。

1964 年（昭和39 年）育英中学校から育英高専印刷工学科に入学して５年間印刷教育をみっちり受けました。20 科目以上にもなる必修・専門科目などの授業で毎日が大忙しの日々を送っていたのを思い出します。

育英高専の印刷工学科は印刷に必要な知識だけでなく技術者としての人間形成教育にも力を注いでいました。教授陣も印刷界の著名な先生方が育英高専に結集して私たち学生達を熱心に指導をしていただいたのを思い出します。佐野先生、垣生先生、青木先生、塩冶先生、三浦先生、和田先生、など印刷界の重鎮と言われる先生方が多数おられました。先生方は教育を通じて日本の印刷関係会社の技術の向上とリーダーの養成に情熱を注いでいました。

1969 年（昭和44 年）に卒業して両国にある新藤写真製版株式会社に入社し写真製版の部署に配属されました。丁度この時期は手作業による色分解製版から電子機器（カラースキャナー）を使った製版へと変わってきた時です。会社にはPDI スキャナー、マグナスキャン、ヘルスキャナー、DS スキャナーなどの機器が20 台ほど導入されていて日本最大の製版会社でした。最新の技術も高専で受けた専門教育が大いに役に立ち最新知識を活用する事ができました。

1972 年（昭和47 年）海外進出の話がありました。日本の製版印刷技術を使って海外で事業展開をする事になりました。入社して３年目24 歳の経験の浅い私に運良く辞令が下り海外勤務のチャンスを掴む事ができました。

場所はアメリカ、ニューヨークです。転勤先の会社は日米の会社が合同で設立した新会社でした。当地で現地の社員と協力して

右上に続く

左下の続き

仕事と現地社員技術者の教育をしておりました。45 歳までニューヨークに転勤、帰国を３回繰り返して通算15 年間の海外勤務を経験する事ができ人生の大きな糧となっています。長い海外勤務でしたが人生にとって良い経験をする事ができたと思っています。海外転勤中、一期生の溝口先輩が大日本スクリーン株式会社のシカゴ本店に勤務しており在学中から写真部の先輩として懇意にさせていただいたご縁でアメリカでの機材調達や人材教育に便宜を計っていただき色々と助けていただきました。

この頃アメリカから始まったDTP（デスクトップパブリシング）の技術も教授していただき、日本に帰国後大いに役に立ちました。このときも育英の先輩、後輩に助けていただいたことは本当に感謝でした。

2004 年（平成16 年）株式会社ジャパン・スリーブに移籍して主に音楽パッケージの製版、カラーマネージメント、印刷の品質管理に携わりました。14 年間にわたりデジタルプリプレス事業本部長役員として勤務をする事が出来ました。昨年69歳になり引退をしました。約50 年間印刷業界の最先端で最新技術を使って働けた事は育英高専印刷工学科で教育を受けた事が出来た事からこそ技術者として仕事が出来たと思っています。これも多くの先生方のご指導のお陰と感謝しています。現在は三浦澄雄先生、山田功先生、小林弘治さん諸氏が創設した育英グラフィックの会の世話役をさせていただいています。

育英グラフィックの会

この会は印刷工学科、グラフィック工学科、ビジュアル情報工学科を卒業した卒業生の交流の場として活動をしております。これは先に述べた経験に基づいて社会人として人脈の大切さを痛感してこの会の活動を通じて同窓生の交流の和を広げ最先端技術の啓蒙、仕事情報、会社情報などを共有する事で同窓生の役に立っていただきたいとの思いで活動しています。

今年新しい役員が選出され新体制になりましたので紹介します。

育英グラフィックの会総会

会　長　武田(8期)　 副会長　千葉（11期）
幹　事　水上(14期）、齋須(16期)、大瀧(19期)
　　　　早乙女(24期）、市川(31期)
会　計　平山(10期)
事務局 杉原(2期)
顧　問　三浦先生、越田先生、加藤先生、小林(H14期)

卒業して66年
郷愁の育英中学
育英中学7期（昭和28年卒）　小熊坂　満邦

昭和25年（戦後の新制中学が発足したのが昭和22年、全学年が揃ったのが昭和24年なのでその翌年のこと）入学当時の校名は「帝都育英学院中学校」といわれていました。サレジオ会経営のカトリック校で、私は現在でも清瀬にある東星学園というパリ外国宣教会系の小学校から進学しました。上位校には工業高校が設置され、中学、工高を通してイタリア人をはじめとして、多くの欧州系外国人神父や修道士が働いていました。校長はガストン・デュメ先生（オランダ人）、教頭はアルビノ先生（リトアニア人）、タッサン・ニコロ先生（イタリア人）、教会にはマンテガッア神父（イタリア人）、校内にあったドン・ボスコ出版社にはバルバロ神父（イタリア人）らが校内を闊歩していました。

入学した年に3人の新人先生が入職され、各々3つの組の担任になり、3年生まで持ち上がりで教わりました。平山吉晴（国語）、横山(楠井)威（社会）、遠藤知見（理科）の先生方です。このうち平山先生は高専の副校長まで務められました。それは校長は当時外国人神父に限られていたからです。

中学に入って初めて英語に接し、日本人の伊藤先生から格調高いKing's Englishを習っていたところに急にアメリカ人神父がやってきて教科書のタイトル"Jack&Betty"をジャカンドベリーと発音して我々の度肝を抜いたのです。"ベティー"は"ベリー"、"ウォーター"は"ワーラー"でした。今まで習っていた英語は一体何だったのか頭が真っ白になりました。アメリカ英語の洗礼でした。しかも当時としては珍しいテープレコーダーを持ち込み朗読させて録音、再生して発音を直すという画期的な授業でした。このゴリス・リチャード先生は後にヘビの飼育・研究でヘビ博士としてTVにもでて有名になりました。（編集コメント：後に日本爬虫類・両棲類学会の第3代会長）

学校では野球が盛んで昼休みはいつも野球でした。またテニスコートを作ってもらい上級生とともに毎日放課後にローラーを引いてコートを整備し、テニス（軟式）を楽しみました。

右上に続く

左下の続き

中学で仲良しになり80歳を過ぎた今も親しくしている友人が2人います。我々3人は各々別の都立高校に進学し、大学は東大で一緒になり、支倉崇晴君は後に東大教授に、広田昌義君は後に京大教授に、私は商社マンとしてロンドンに10年程駐在、砂糖会社の社長を経て引退、今は出身の東星学園の理事並びに同窓会長を務めています。この3人は夫婦で恩師の平山先生のお宅を訪問し、昔話や、先生の趣味の骨董の蘊蓄を聞くのが楽しみでした。その平山先生も今は亡く、杉並に行ってもあの育英中学も無く、高層マンションが林立しているだけです。

"つわもの共が夢の跡"　なのでしょうか・・・

ともに卒業して24年
高専夫婦として
高専28期情報工学科　阿部　崇・涼子

「家から一番近い高等学校は…」という理由だけで、当時の育英工業高等専門学校を決めていました。当初は、デザイン工学科へ志望していましたが、中学3年のときの担任である遠藤先生から「おまえは、パソコン好きなんだから、情報工学科だろ」の一言で転身…今では、その判断も良かったと思い返せる人生です。

「良かった」と考えられる人生の大きな転換期が2つあります。一つは就職です。当時、衰退の一途をたどっている状況ではあったものの、IT業界の巨人として君臨していたIBMへ入社しました。これは、情報工学科での授業と訓練の賜であったこと、それから、同じ育英高専出身のIBM社員が多かったこと。高専の理解ある外資系企業として、高専出身であるわたしを、優しく受け入れてくれました。同期にも多くの高専出身者がおり、IBMを牽引する日本国内でも有数のエンジニア（Distinguished Engineer）にも高専で学習したエンジニアの方々がいます。高専は、一般的にはそれほど認知されているわけではありませんが、ことIT業界という枠の中では、多くの優秀なエンジニアがいること、とても誇りに感じています。

もう一つは、結婚です。同じ情報工学科に席をおいていたクラスメイト（平野涼子）と結婚し、今では4人の娘に囲まれて暮らしています。育英高専の共学第3期生で、クラスメイトと結婚したのは、わたしたちが第一号ではないでしょうか。
（IDにもいるかも…）

おかげさまで今でも仲良く暮らしています。その妻が、育英高専を選択した理由は「なんとなくコンピュータに関わる職業に就きたいと思っていた中3の秋、学校一覧から情報科のある学校を索引順で選んだ学校が育英高専」と語っています。

次ページへ続く

前ページからの続き

私と彼女は共にものごとを深く考えすぎない同志、うまくやれてこられた理由かなと感じる部分があります。このように、わたしの大きな人生の決断のきっかけは、育英高専から生まれています。「高専」とはそれだけ、人生に影響を与えるだけの技術力や、人生観を与えれてくれる場所だったと考えています。

妻も私も、育英での5年間が、夫婦ともども技術を基盤にしている姿を娘たちはよく見ていた結果、皆、理系の学校へ入学し三女は高専へ入学しました。私たち夫婦は、今でも、高専時代にポケコンのBASICで作ったゲームの話などを、娘たちにしています。私が作ったゲームを、妻が自動攻略ロジックでクリアするようなものを作り、日々切磋琢磨していたことを楽しく伝えています。娘たちも、そういった技術の話がわかるようになってきて、より楽しい生活を送ることができています。育英高専で学んだ多くの技術は、今でもこのように我が家で育まれています。

卒業して45年
～これは私が造った発電所～
育英高専7期電気工学科卒　齊藤　富士雄

今野先生が大学卒業して新任2年目で初めての担任が1年生の私のクラスでした。何も知らない1年生の夏合宿群馬県東村（現みどり市）東中学校で一日4回の稽古を10日間行い良く出来たと今でも思います。今野先生や先輩から言われた事はこれだけ苦しい稽古が出来れば社会人になって苦労はたいしたこと無いと言われ、それを信じて真面目に仕事していればどうにかなると思いましたが、仕事は山ほどあり勉強不足を痛感して学生時代より勉強しています。

1974年に明電舎に入社して三か月の工場実習後、工事部門に配属されました。当時は水力発電所建設が毎年あり電力会社は関西、北海道、北陸、県営は新潟県、秋田県、山口県、神奈川県、福岡県の仕事に関わりました。新設物件で現場に初めて常駐したのが東北電力新柳渕発電所です。

入社して7年目28歳の時にフィリッピン電力公社（NPC）ミンダナオ島アグス第5発電所の建設で3年サイトマネージャーとして常駐しました。現地に入りした時期はアキノ氏がマニラ空港で射殺されたー か月後であり異様な雰囲気でした。当時の通信手段はテレックスで商社の関連会社に行っての連絡で急な連絡は一日掛かりの電話局に行っての連絡になる時代でした。5年後の1989年から1992年にインドネシアスラウェシ島バカル発電所のサイトマネージャーとして常駐しました。この時期は日本から人、材料、機材、工具等全て持ち込み仕事をする時代でした。インドネシア国内で調達できるようになるには13年後を待たねばなりませんでした。この時期はバルブ最盛期で重役の現場視察が多かった時代です。通信手段の進歩により電話状況が良くなりダイヤル通話が街に行けばできFAXでの連絡ができる様になった時期です。（インターネットはまだ先の世界です）

右上に続く

左下の続き

こんな時期にテレビコマーシャルの話があり仕事が最盛期の水力発電所建設では重要なイベントになる回転子投入時に合わせての撮影になりコマーシャルタイトルが「齊藤が行く」編となり主役タレントになりました。日本から宣伝課、代理店、プロデューサー、カメラマン、コーディネーター10人以上のスタッフになり30秒コマーシャルですけど撮影は2時間以上になりました。明電舎が水力発電所全て作っているような内容になっていますが客先PLN（インドネシア電力省）コンサルタント（ニュージェック）土木・建築（台湾）水車（東芝）鉄管（川崎重工）送電線（ウエストジェック）等々ほぼ日本連合のプロジェクトでした。

（編集コメント：私（木戸）が電気工学科在職当時にTVCMで見た記憶からこの寄稿をお願いしました）

（同コメント：発電所の基幹設備設置にもこんなに多くの企業連合とスタッフが係わっています）

その後43歳の時に病気になり名医の手術で社会復帰できましたが一時期は大変でした。退院後は仕事一途からそば打ちを始めたのが21年前の45歳になります。

月2回研鑽会で蕎麦打ちをしています。そこでは仕事とは関係ない人々と交流があり楽しんでいる現在です。

（同コメント：発電・電機設備をつくっている明電舎・同子会社には最近の卒業生が毎年入社して国内外の各地で活躍している）

ちひろが再会した人々（東ティモールに帰ってきた⁉）　2019/7/21-8/7

VIVATIMのブランドでクラフトを制作している鈴木（阿久津）ちひろ（S31GE）さんはボランティアでお世話になった東ティモールを訪れ援助金を届けるとともに多くの人々と再会した。出発前には現地政府参事官の助言もあり、折良く日本に帰国中の在東ティモール日本大使の南大使夫妻とも面会しサレジオ高専と東ティモールの長い交流と支援について報告し謝意の言葉を頂戴した。大使は辻村直（S29ID）さんのことも承知で本校の活動を良く承知されていた。さる2019/7/21日本を出発、クアラルンプール経由で東ティモール・ディリに入国。約3週間の間なつかしい友達と再会した。

左・1995年からの友人
ルイ神父とアンドレ神父

下・ファトマカのロカテリ神父と

上・ロスパロスの孤児院にバリカンのプレゼント
使い方を教えています。
右上・バリカン初挑戦と孤児院の子供達

左・ラガ孤児院のシスターリタ
ラガ孤児院の子供達と
育英ファミリー会の寄付金
を渡してきました

上・学生時代に
一緒に遊んだ
村の子供が副大臣に！！

左・上・本当にキレイなJaco島
この船はスロイテル神父・辻村さんが
現地の人と作ったものです。

写真が載せきれませんが今回は医療活動の補助や、日本語教室の補助も経験してきました

辻村直先輩と再会祝杯を…

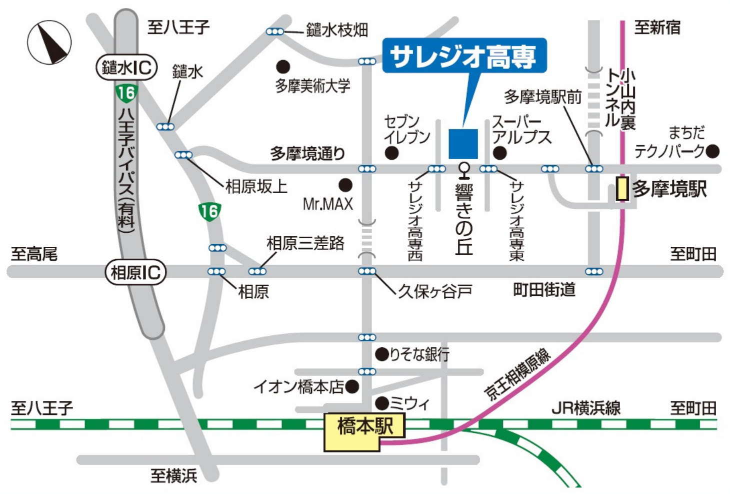
仲良しの神父様たちと。。
みんなドンボスコで
繋がっています

祝電　同窓会長から
同窓会副会長でも
あるちひろさんの
現地の活躍と帰国
をお慶びいたします

3週間お留守番した「トラ」と娘達と
両親とそして夫にも感謝！！　ちひろ

高専News編集部では
皆様からの情報やご要望をお待ちしております。

ご自身の近況・ご学友の近況などの情報のご提供や、より詳しく知りたい本校の活動内容などがございましたら
お気軽に下記担当者までお問い合わせください。

企　画　広　報　課
星野　正登
【　hoshino@salesio-sp.ac.jp　】　or　【　070 - 2196 - 5135　】

なお、本校に来校をご予定の方は、公共交通機関をご利用の上、
お気をつけてお越しください。